

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ・全教科・領域を通して言語力を育成し、主体的・対話的な学びを通して思考力・判断力・表現力を高め、自己肯定感を育む。
- ・司書教諭及び図書担当を中心に学校図書館の環境整備と読書活動の充実を図り、読書を軸としたカリキュラム・マネジメントにより学びを深める。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が安心して学べる学習環境を整えるとともに、適切な助言や価値付けを行い、対話的な学びを通して他者の考えを生かしながら新たな考えを創造する力を育成する。
- ・各授業において、児童と共に「めあて」を設定し学習内容を明確にするとともに、「振り返り」の時間を設け、学習の理解や定着を図る。
- ・ICT機器を効果的に活用し、情報活用能力の育成を図り、児童の意欲を引き出しながら個別最適な学びを推進するとともに、協働的な学びの充実を図る。
- ・体力テストの結果を踏まえ、基礎的な運動能力（走・跳・投）の向上を図るとともに、多様な運動に親しむ機会を設けることで、運動の習慣化を促す。
- ・図書館運営支援員及び市立図書館と連携し、図書や書架の整備、学習貸出を進めることで、学校図書館の「読書・学習・情報センター」としての機能を充実させる。

イ 道徳科

- ・生命の尊さや人としての在り方について考える学習を通して、自他の生命を何よりも大切にし、相手の立場や思いを尊重しようとする心情や人権感覚、規範意識を育成する。
- ・多様な価値観に触れ、対話を重視した「考えて議論する道徳」の授業を通して、物事を多面的・多角的に捉えながら自己の生き方を考え、よりよく生きるための判断力及び道徳的実践力を養う。

ウ 外国語活動

- ・外国語による体験的なコミュニケーション活動を通して、言語や文化への関心を高め、相手を意識して積極的に伝え合おうとする態度を育成する。
- ・外部講師を活用し、コミュニケーションの楽しさや大切さを実感させるとともに、異文化理解と自国文化への理解を深める。

エ 総合的な学習の時間

- ・清瀬の自然や人、文化などの地域素材を生かした探究的な学習を通して、課題を見だし、主体的に解決しようとする力を育成する。
- ・SDGsの視点や国際理解教育を踏まえ、調べたことや考えたことを整理・分析し、表現・発信する学習を重ねることで、地球規模の課題を自分事として捉え、思考力・判断力・表現力や国際的な視野を養い、学びを自己の生き方や将来につなげる力を育む。

オ 特別活動

- ・学級活動や児童会活動、学校行事等を通して、自他の生命や人権を尊重する心を育み、集団の一員として役割や責任を果たそうとする態度を養う。
- ・異学年交流や協働的な活動を重ねることで、思いやりや協力の大切さを実感させ、主体的に学校生活をよりよくしようとする実践力を育成する。

（2）特色ある教育活動

ア 読書活動の充実

- ・年間を通じた読書指導により、本に親しみ活用する力を育て、語彙力・読解力などの言語力や、論理的思考力、集中力の向上を図る。
- ・読書を通して得た知識や考えを自分の言葉で表現し他者と共有する活動を重ね、インプット力とアウトプット力を育成する。
- ・毎朝の読書タイムを通して、読書から学校生活を始める習慣を定着させ、本に親しむ学習環境を整える。
- ・学校運営協議会や学校支援本部と連携した読み聞かせを通して、児童が豊かな表現や語りに触れる機会を充実させる。
- ・市立図書館の学習貸出を活用して学級文庫を充実させ、児童が多様な本に触れ、いつでも読書に親しめる環境づくりを進める。
- ・図書館を活用した探究的な学習を通して、課題解決に必要な知識や技能を身に付け、その成果を「図書館を使った調べる学習コンクール」への出品につなげる。
- ・児童が使いやすい読書カードや掲示物を工夫して活用し、読書への意欲を高める。
- ・学校図書館の環境整備を進め、児童にとって身近で親しみのある図書館づくりを通して、読書への意欲を高める。
- ・「おうち図書館」を活用し、学校と家庭が連携して読書を推進し、家庭における読書習慣の定着を図る。

イ 「清四漢検」の実施

- ・語彙力を高め、言葉を適切に使いこなす力の育成を目的として「清四漢検」を実施する。
- ・理解力や表現力の基礎となる漢字力を育成し、漢字を正しく読み書きする力を身に付けるとともに、卒業までに小学校で学習する全ての漢字の習得を目指す。
- ・思い出す力、覚える力、適切に使える力に重点を置いた問題により漢字力の向上を図る。
- ・児童が自ら受検する級を選び、合格証を得られる仕組みとすることで、学習意欲の向上を図る。
- ・「チャレンジタイム」を設定し、児童が自分のタイミングで挑戦できる機会を設けることで、主体的に学び、粘り強く取り組む態度を育成する。

ウ 自然体験・栽培・観察活動の充実

- ・せせらぎ公園や空堀川・中里緑地等での学習や栽培活動を通して、自然や郷土を愛する心を育てるとともに、自ら課題を見いだし探究する力を養う。
- ・外部人材を活用し、各学年の発達段階に応じた自然体験や栽培・観察活動、フィールドワークの充実を図る。

エ 外部講師の活用

- ・複業先生を活用した外部講師による出前授業を実施し、聞く力や伝える力の向上を図る。
- ・外部講師による豆腐作り体験を通して、日本の伝統的な食文化に親しむとともに、食への感謝や食べ物を大切に作る心を育て、SDGsの視点を取り入れた学習を行う。

（3）生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ・いじめの未然防止と早期発見・早期対応を図るため、定期的な「ふれあいアンケート」や「アセス（学校環境適応尺度）」を活用し、児童一人一人や学級の状況を的確に把握し、組織的に支援を行う。
- ・きまりの遵守や生活目標の徹底を通して、基本的な生活習慣の定着を図り、自立した生活態度を育成する。
- ・危機管理体制や緊急時対応を随時見直すとともに、避難訓練や安全教育を計画的に実施し、「自分の身は自分で守る」意識と行動力を高める。
- ・警察等の関係機関や家庭・地域と連携し、交通安全教室やセーフティ教室を実施することで、防犯・情報モラル・薬物乱用防止等について学び、危険回避能力と自他の安全を守る力を育成する。

イ 進路指導

- ・キャリア教育年間指導計画に基づき、他者との関わりを重視した教育活動を通して、自分のよさや可能性に気付かせる。
- ・多様な職業への理解を深め、自分に合った生き方や進路について考えさせることで、望ましい勤労観・職業観を養い、自己実現につながる進路意識を育成する。
- ・各教科や特別活動等との関連を図りながら、働くことや社会とのつながりについて考える学習を行い、将来への見通しをもって主体的に生きようとする態度を育成する。
- ・小中連携を生かした進路指導を推進し、自己理解を深めるとともに、次の学びの段階へ円滑に移行できるよう支援する。

（4）特別な配慮を必要とする児童への指導

ア 特別支援教育の充実に関わること

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を計画的に運営し、児童一人一人の教育的ニーズを共有しながら、組織的な支援体制の充実を図る。
- ・学習環境をユニバーサルデザインの視点から見直し、全ての児童が安心して学べる環境の中で、分かりやすい授業の実践を重視する。

イ 帰国児童や外国人児童の学校生活への適応や日本語の習得に関わること

- ・外国人児童生徒等教育担当コーディネーターを中心に、日本語指導員等と連携し、指導内容や方法を工夫しながら、組織的・計画的に支援を行う。
- ・児童の日本語能力や家庭の実態に応じた個別指導を充実させ、学校生活への円滑な適応と学習への参加を支援する。

ウ 不登校児童への配慮に関わること

- ・教育相談担当教師を中心に、不登校の未然防止及び対応に向けたケース会議を適宜実施し、保護者やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の関係機関と連携して、組織的かつ継続的な支援を行う。